

# 現在の不況 = コロナ禍 + 消費税増税 銀行の貸し渋りがはじまる!?

## コロナ前から不況に突入!

去る10月12日、IMFが「世界経済見通し」を発表しました。2021年の世界経済の成長率見通しは5.9%で、前回の見通しと比較すると0.1ポイント下方修正されました。日本の成長率予測は2.4%で、前回発表の2.8%から0.4ポイントの下方修正となっています。多くの日本国民は現下の景気低迷を「新型コロナ問題に伴う不況」と思い込んでいるようですが、我が国経済は新型コロナ発生以前から既に深刻な不況に突入していました。信じがたいことかもしれませんが、日本経済は2017年の秋から既に後退局面に入っていたのです。そのことは内閣府が発表している『景気動向指数(CI)』の推移をみても明らかです。(グラフ参照)

## 消費税増税が元凶!

2019年には世界経済全体が後退局面に入ったのですが、なんとその年の10月には安倍内閣によって消費税増税(8%→10%)が断行されたのです。結果、その後の経済成長率は…

|       |         |          |
|-------|---------|----------|
| 2019年 | 10~12月期 | マイナス1.9% |
| 2020年 | 1~3月期   | マイナス0.6% |
| 2020年 | 4~6月期   | マイナス7.9% |

…となりました。

つまり3期連続の「マイナス」という完全なリセッション(景気後退)に陥ってしまったのです。そんな深刻な不況に政治はなにも手をつけられないまま、今度はコロナ・パンデミックが日本を襲ったわけです。

消費税増税によるデフレ圧力が、新型コロナウイルスによる経済への打撃を増幅したと言っている。先の衆議院総選挙の際においても政治家たちは、まるで消費税増税など無かったようにとぼけていました。かなり深刻で、今や懸念は金融面にまで及んでいます。

## 地域経済では貸し渋りが

仕事柄、私は様々な業種の事業者の皆様とお話させて頂く機会があるのですが、地域経済では既に銀行の貸し渋りがはじまっているようです。例えば昨年来、国際決済銀行が拡大を続けるCLO市場に警鐘を鳴らしていますが、このことも懸念材料です。

CLOとはローン担保証券のことで、信用度の低い企業へのローン(レバローン)を裏付け資産にした証券化商品を売り買いしている市場です。



上のグラフのとおり、2018年の時点で日本の金融機関のCLOシェアは18%にまで及んでいます。このリスクは決して小さくないはず。

更に気になるのは、民間債務の増大です。過去の金融危機事例を分析したリチャード・ヴェイグは、民間債務の対GDP比が5年間で18%増え、150%を超えてしまうと金融危機が発生する、という仮説を立てています。この二つの条件に当てはまっている国や地域は、カナダ、中国、フランス、香港、韓国、シンガポール、スウェーデン、スイス、日本です。リチャード・ヴェイグの仮説が正しければ、これらの国や地域ではバブルが起きている可能性が高い。

因みに、日本ではデフレ経済が続いていますが、实体经济のデフレと金融経済のバブルは同時に成立し得ます。

## 政治行政は最悪を想定せよ!

多くの金融機関が、デフレ経済による資金需要の低迷に加え、長期に及ぶ金利低迷により収益の悪化に晒されてきたために「レバローン」を買い進めてきたようから、体力的にも脆弱性が高まっているのではないのでしょうか。

日銀の資料によると、日本の金融機関の資金利益(資金運用で得た利益から資金調達費用を差し引いたもの)もリーマンショック後を下回っています。

このままの状態がつづくと、年末から来年の春ごろにかけてさらに銀行は貸し渋り、資金繰りに苦しむ企業が多くなるかもしれません。金融危機が起きないとも限らない。むろん取り越し苦労であってほしいと思うのですが、政治行政は常に最悪を想定しておかねばならない。



川崎市議会議員

# 三宅隆介

深刻化する地域経済  
消費税増税の罪  
現在の不況は  
コロナ禍による影響だけではない!  
銀行の貸し渋りがはじまる!?

これまでの定説は覆っている!  
稲作は縄文時代前期から、水田稲作は紀元前10世紀から既にはじまっております、

副読本「かわさきの歴史記述に異議あり」



Ryusuke Miyake Custom



詳しい内容はYou Tubeでも!



<http://ryusuke-m.jp/>

三宅隆介

## 三宅隆介プロフィール

昭和46年3月23日生まれ。大東文化大学文学部 卒業。コアサ商事株式会社を経て、国会議員秘書。平成15年4月 川崎市議会議員 初当選、現在5期目。川崎市多摩区中野島在住。

# 記述の変更が求められる!

川崎市教育委員会は、義務教育の補助教材として副読本「かわさき」を発行しています。発行部数は全市小学校3年生分等の1万3900冊で、主として社会科や総合的な学習の時間に活用されています。副読本「かわさき」では、とりわけ歴史の記述について、何箇所か意図的とも思える説明欠如箇所が見受けられます。歴史は国民教育の根幹に関わるものです。近年、画期的な技術で新たな史実が明らかになっており、そうした史実こそ副読本で紹介すべきです。

令和3年9月に開会された川崎市議会「決算審査特別委員会」での質疑内容を要約し、以下のとおりご報告申し上げます。

## 意図的な言葉足らず!?

### 三宅隆介 質問

副読本の115頁に「プラントオパール分析法」の説明がなされ「縄文人もお米を食べていた」と記述しているが、この記述は極めて意図的な言葉足らずではないか?

縄文人も食べていたと言うより、縄文時代から既に稲作がはじまっていたのであり、そうすると紀元前3000年ごろに朝鮮半島から稲作が伝わったという従来説は疑わしいことになる。プラントオパール分析法のほか、放射性炭素年代測定法や核DNAのゲノム解析などの画期的な技術からも新たな史実が確認されていることについても解説すべきではないか?

### 教育委員会 答弁

学習指導要綱、教科用図書の内容を踏まえた調査研究を重ね、記述内容や表記等を検討してまいります。

## 三宅の視点、隆介の発想

イネ科の植物には、宝石のオパールと同質のガラス質で覆われ、特有の形をした40~50ミクロンの細胞化石が含まれています。

この物質は極めて強靱で、例えば稲が腐食して跡形なく消え去っても、あるいは焼かれて灰になっても、このオパール部分は細胞の形を壊すことなく何千年も残留します。

近年、このプラントオパールを分析することで年代を測定する技術が発達し、様々な歴史的事実が明らかになっています。例えば、岡山県の朝寝鼻貝塚で出土したイネ機動細胞のプラントオパールが発見されたことで、縄文文化の稲作が既に紀元前4000年の段階で成立していたことが明らかになりました。なお菜畑遺跡からは水田の遺構が発見されており、放射性炭素年代測定法によって紀元前1000年ごろの遺構であることが確認されています。

## 新技術で判明した稲作のはじまり

### 三宅隆介 質問

意外と知られていないが、岩宿遺跡からは世界最古(大陸より約2万3000年も早い)の磨製石器が発見されており、大平山元遺跡からは世界最古(約1万6000年前)の土器が発見されている。あるいは既に、紀元前10世紀から水田稲作が行われていたことが菜畑遺跡で確認されている。

これらの史実を踏まえると、副読本の116頁にある稲作に関する記述は変更されねばならない。

我が国では紀元前3000年ごろには稲作がはじまり、紀元前1000年ごろには水田稲作がはじまっているのだから、記述にある「**今から2500年前頃に水田で稲をつくる方法が現在の朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々から伝わり**…」というのはおかしい。

それに、紀元前1万年から紀元前5000年までの朝鮮半島は無遺跡時代であり、人の暮らしの形跡が全くなかったことが既に明らかになっている。

そこに、紀元前3000年ごろの遺跡から突如、縄文土器が出土されている。実は朝鮮最古の土器とされる隆起土器は日本列島の縄文土器である。

大陸には縄文土器をつくる縄文文化はなかったことから、無人となった朝鮮半島に住みはじめたのは日本列島から移り住んできた縄文人だったと考えられます。

前述のとおり、縄文人が水田稲作をはじめたのは紀元前1000年ごろの北部九州であることから、「今から2500年前ごろに朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々から伝わる」ことなど物理的にありえない。

記述を改めるべきではないか?

### 教育委員会 答弁

最新の研究成果など様々な考え方に触れることにより、学びが深まることも重要であると考えておりますので、このような視点も踏まえて、副読本の編集作業に取り組んでまいります。



# 副読本「かわさき」

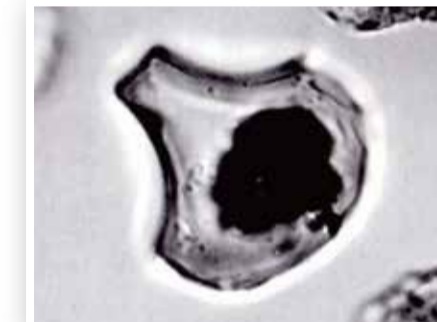
## 稲作は紀元前4000年ごろから、 水田稲作は紀元前1000年ごろから 既にはじまっていた!

## 縄文時代前期から稲作が成立していた



山形県朝寝鼻貝塚で出土したイネ機動細胞のプラント・オパール

周辺各地の遺跡からプラント・オパールが発見されており、縄文文化の稲作は紀元前4千年にすでに成立していたことが明らかになっている。



岡山県姫笹原遺跡の土器片から出土したイネ機動細胞のプラント・オパール

船本式土器(縄文時代中期前半)の胎土からイネの籾殻やプラント・オパールが発見された。



## 「紀元前3世紀ごろから稲作がはじまった」という定説は覆っている!

くつがえ

## 日本最古の水田址「菜畑遺跡」



日本最古(紀元前十世紀)の水田址佐賀県・菜畑遺跡

現在と比べても遜色のない「灌漑施設を伴った水田址」が延々と続いていた。この時代から日本人は水稻米を食べていた。



昭和55(1980)年に発見された菜畑遺跡の水田遺構

較正炭素14年代測定により紀元前十世紀の遺構であることが確認された。